

歴史講座

2024年度

たらばる・わくわく塾

東路日記を 旅して

名優 高倉健さんの5代前の先祖にあたる
小田宅子氏あずまじが書き上げた「東路日記」をもと
に旅した早川氏のお話です。

〈日時〉 4月18日(木)

10:00~12:00

〈講師〉 早川利幸氏

〈参加者〉 約20名

〈資料代〉 100円

申込み受付中

※「東路日記」とは、江戸時代に商家の女将さんが女友達
4人でお伊勢参りから善光寺・日光・江戸・信濃・京・
大阪 800里を144日かけて踏破し、旅の途中で詠んだ
歌も散りばめられた旅行記で、福岡県立図書館に所蔵
されています。田辺聖子の作品「姥ざかりの花の旅笠」
でも有名です。

お問い合わせ・お申し込みは熊西市民センターまで ☎621-3182

- ★ 本年度第1回目の
歴史講座にふさわしい
学ぶ事が多い講話でした！
- ★ 地元の歴史上の著名な
先達の紹介はSDGs4
(質の高い教育をみんなに)
に通じて大変有意義！



実際に旅した講師の体験談に、熱心に聴き入る皆様



説明の都度、手書きの地図で、現地を確認



パソコンも併用し、とても丁寧な説明（高倉健との関わりを紹介）

① 小田宅子と「東路日記」について

小田宅子 生年：寛政元年（1789年）、没年：明治3年（1870年）

おかがた

筑前の国遠賀郡岡県村底井野（現・中間市）の商家の娘。養子の夫・清七を支えて家業にいそしみ身代を大きくした。弟の成人後家を譲り、すぐ横に新家を建てて醤油醸造業を始めた。伊藤常足に和歌を学び、天保12年（1841年）五十三歳の時に友人の桑原久子らと5ヶ月かけて、伊勢、善光寺、日光、江戸、京阪を見物してまわった。そして十年後に旅の詳細を和歌を交えて著した紀行文が「東路日記」である。

伊勢参りの跡は手形がないため関所抜けということになり、道が悪くぬかるみの山道で滑り落ちたり、怪しい男たちに付け狙われたり、泊まるところがなくて困ったとか、そんなことを、ユーモアたっぷりにしかも教養満載の374首もの歌が記されている。

イヒコ

小田宅子の「東路日記」を旅する

- ① 小田宅子と「東路日記」について
- ② 高倉健と善光寺と宅子のかかわり
- ③ 「東路日記」が世に出たきっかけ
- ④ お伊勢参りについて
- ⑤ 桑原久子のこと
- ⑥ 伊藤常足のこと

全日程 天保二二年閏二月十六日から六月十二日までの百四十四日間
全行程 約八百里（約三千二百km）